

科目区分：芸術文化課程・音楽文化コース
授業科目名：伴奏法
対象年次：3年次（10名受講）

伴奏法

音楽教育講座・安積京子

1. 授業の目的と到達目標

本授業は、ピアノ演奏法や表現法を応用発展させ、教育や音楽実践の場において柔軟に対応出来るピアノ伴奏能力を養うことを目的とする。またピアノアンサンブルを通して、他者と音楽を共に奏でることによって、アンサンブルの楽しさ、喜びを共有し、コミュニケーション能力を高めることを目的とする。

2年次の後期までに「ピアノ①～③」を受講し、すでにピアノ奏法に関する基礎的な知識および技能を習得しているが、更に発展的な内容の課題を実施し、ピアノ伴奏法と2台ピアノによるアンサンブルにおいて幅広い専門知識と高度な演奏能力を身につける。

2. 授業の概要について

本授業は、芸術文化課程音楽文化コース3年生を対象に開講されている。今期の受講生は10名である。ソロの演奏経験は多いが、伴奏やアンサンブルの経験はまだ少ないため、2回にわたってプロのソプラノ歌手をゲストに迎え、ドイツ歌曲やイタリア・オペラの名曲を学生達と共演させた。また全員にプロのクラリネット奏者と共演させる機会も与えた。その他、学生同士ペアを組ませ、2台ピアノによるアンサンブルを取り上げた。

3. 関連するディプロマポリシー

- 1) 地域社会における音楽文化振興に貢献するために、高い演奏技能と豊かな音楽的表現力を身につけている。(技能・表現)
- 2) 音楽文化に関する自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた主体的な音楽活動ができる。(関心・意欲)

4. 授業の課題について

受講者が選択した課題の一部を記す。

(歌曲伴奏による課題曲)

- ベートーヴェン：君を愛す
- シューマン：はすの花

- シューベルト：野ばら
- ヘンデル：私を泣かせて下さい
- プッチーニ：私の愛しいお父さん
- ジョルダナーニ：愛しい人よ
- パイジェッロ：もはや心に感じられない
- カルダーラ：どんなに悩まされても
(クラリネット伴奏による課題曲)
- バルトーク：ルーマニア民族舞曲
- ドヴォルザーク：ユーモレスク
- ラヴェル：ハバネラ
- エルガー：愛の挨拶
(2台ピアノによる課題曲)
- ブラームス：ワルツ op.39

5. 指導上のポイント

1) 歌曲伴奏法に関して
課題曲のドイツ歌曲やイタリア・オペラの内容を的確に理解するために、始めにドイツ語やイタリア語の歌詞を全員で朗読し、訳を確認した。歌手のブレス（息継ぎ）の場所を考察し、ブレスの長さやタイミング、息の流れについて重点的に学んだ。その上で、各曲の背景にふさわしい音楽表現について話し合い、ピアノ伴奏の表現技術を高めるための指導を行った。

2) クラリネットの伴奏に関して
プロのクラリネット奏者と共演することにより、管楽器奏者の息づかい、体の使い方、舞台上で共演者とのコンタクトの取り方、音楽の解釈等について、重要な事柄を学ばせた。

3) 2台ピアノによるアンサンブルに関して
今期は希望する学生のみ2台ピアノによるアンサンブルを取り上げた。初めて経験する学生が多いため、2台のピアノで表現する難しさ、楽しさを感じてもらうために、学生の個々のレベルに応じた丁寧な指導を心がけた。

6. 授業アンケート

本授業終了時に、受講者 10 名を対象に無記名方式で、下記の 8 項目の 4 段階評価によるアンケートを実施した。また自由記述も併用した。

1) 集計結果について

1.本授業に興味を持ち積極的に参加出来たか。
出来た 6名

どちらかといえば出来た 3名

どちらかといえば出来なかった 1名

出来なかった 0名

2.本授業のための準備は毎回充分であったか。
充分であった 0名

どちらかといえば充分であった 6名

どちらかといえば充分でなかった 4名

充分でなかった 0名

3.出席状況は良好であったか。

良好であった 6名

どちらかといえば良好であった 2名

どちらかといえば良好でなかった 1名

良好でなかった 1名

4.授業課題の量は適切であったか。

適切であった 5名

どちらかという適切であった 5名

どちらかという適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

5.授業の難易度は適切であったか。

適切であった 7名

どちらかといえば適切であった 3名

どちらかといえば適切でなかった 0名

適切でなかった 0名

6.授業中は良好な雰囲気は保たれていたと思うか。

そう思う 8名

どちらかといえばそう思う 1名

どちらかといえばそう思わない 1名

そう思わない 0名

7.受講後、新しい専門知識や演奏技術を得ることができたと思うか。

そう思う 7名

どちらかといえばそう思う 3名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

8.本授業を受講したことが、今後の学習に有意義であると思われるか。

そう思う 8名

どちらかといえばそう思う 2名

どちらかといえばそう思わない 0名

そう思わない 0名

9.本授業で良かった点(自由記述より抜粋)

○プロの方と共演でき大変勉強になった。

○教育現場で役立つ曲が多く学べた。

○毎回クラス全員のレッスンを見ることができたので、自分の演奏にも反映できた。

○ピアノ伴奏法だけでなく、作曲家や曲の背景、音楽の歴史についても学べて良かった。

10.本授業で改善すべき点(自由記述より抜粋)

○全員を均等にレッスンできるよう時間配分に気をつけてほしい。

2) アンケート結果のまとめ

授業準備に関しては、どちらかといえば充分でなかった学生が多い。授業課題の量と難易度は適切であったという回答が多かった。受講後、多くの学生が新しい専門知識や演奏技術を得ることができ、また今後の学習に有意義であったと回答している。

7. 授業時間外学習の促進について

「H26 前期 DP 対応学生認識調査・伴奏法」(受講 10 名、回答 9 名、回答率 90%)により、授業時間外学習の平均時間が 1.28 時間と算出された。(内訳は、1 時間が 6 名、2 時間が 1 名、3 時間が 1 名、30 分が 1 名である。)実技の授業であるため、授業準備(練習)は必須であるが、この授業時間外学習時間は予想より少なかった。

今期は、学生の練習のモチベーションを高めるため、外部よりプロの音楽家とクラリネット奏者を呼び、共演させる機会を与えた。プロのゲストによる 3 回の講義は、学生の出席率が非常に高く、通常より事前準備を十分にし、授業に積極的に取り組む姿勢が見られた。今後の課題として、授業準備の重要性を指導するとともに、主体的に学ぶ姿勢を持たせるためのプログラムを再検討したい。